

（１）大学・学科の設置理念

①大学

下関市立大学は、「総合的な知識と専門的な学術を教授研究するとともに、地域に根差し、世界を目指す教育と研究を通じ有為な人材を育成することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与すること」を目的として設置されている。（下関市立大学学則第1条）

さらに、教育と研究を貫く理念として「教育と研究の一体性に基づく新たな知の創造」「東アジアを中心に広く世界に目を向けた教育と研究」「地域社会の知的センターとして地域に根ざした教育と研究」の3つを掲げ、

1. バランスの取れた教養豊かな高度職業人を養成すること
2. 地域社会及び国際社会の発展に寄与すること

を教育と研究の目的としている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

認定を受けようとする学科：データサイエンス学科

本学科は、多様なデータを設計・分析・活用するために必要な数理統計・情報学・社会科学に関する理論と実務に習熟することにより、社会や組織が抱える課題の解決や新たな価値の創造に貢献しうる高度職業人の育成することを教育研究上の目的とする。（下関市立大学学則第3条）

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学は、上記3つの理念と2つの教育・研究の目的に従い、豊かな教養と高度な専門性を兼ね備えた教員の育成、かつ、そうした教員が時代の変化や地域社会の要請に応え、コミュニティを豊かに創成させていく確かな実践力を育成することを企図している。

本学の教員養成は、豊かでバランスの取れた教養と教職及び教科に関する高度な専門性を兼ね備え、教育者として強い使命感と倫理観を持ち、幅広いコミュニケーションで他者と連携・協働できる力を備えた教員を育成することを目標とする。

この教員養成の目標のため、

- ・教養教育として提供するリベラルアーツ科目群（人文科学、社会科学、自然科学、生命・健康科学、人権・共生）や地域の理解を深めるための下関学など、教員として求められる広く豊かな知識と学力を身につけることのできるカリキュラムの設置を行う。
- ・教職及び教科に関する専門的な学びを提供するため、教職履修カルテを活用し、学生の学修成果を振り返りながら、4年間系統的に指導を行う。
- ・教育委員会や地域の学校との連携を図り、学校体験制度や介護等体験による現場体験や学校ボランティアをはじめとした各種地域ボランティア活動を推奨し、幅広い世代との人間関係を築き、教員としての使命感と倫理観をもって行動できるよう教職専任教員が協力して指導を行う。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

認定を受けようとする学科：データサイエンス学科

このたび認定を受けようとするデータサイエンス学科では、変化の激しい社会情勢の中で、様々な分野に共通する統計的思考やコンピュータ上でデータを扱うための知識を基に、人々の生活を豊かにするための創造的提案を行うことのできる人材育成を目指している。

このような学科の目標のもと、本学科では次のような教員を養成する。

- 1) 統計や関連する数理科学に関する知識とデータを収集・整理・分析し論理的に考察できる能力を生かしながら、持続可能な社会の担い手となる学修者を育てることができる教員
- 2) 情報の管理や分析、人工知能などのアルゴリズムに関する知識を有し、様々な形式のデータを適切に扱う倫理観や責任感を持つなど、教師としてのデータリテラシーを身につけた教員
- 3) 生徒理解や様々な教育活動に必要なデータの収集・分析・提案ができ、課題解決に向けて様々な立場の人と連携・協働することができる教員
- 4) 地域の課題解決のために、データ分析結果の統計的解釈を活用することができる能力を身につけた教員

こうした教員を養成するため、本学科では以下のような教育課程を編成している。

1、2年次では、データ分析の基本と様々な分野に共通する統計的思考を身につけるため、データサイエンスや統計に関する基礎科目を学修する。あわせて、コンピュータ上でデータを扱うための基礎知識を習得する。

2、3年次では、高度なアルゴリズムに関する知識と、様々な分野におけるデータ分析の手法を学ぶことで、データサイエンスとしての応用力を養い、データが社会に果たす役割についての理解を深める。また、演習やプロジェクト科目を通じて、データを適切に扱う応用力と様々な人と協働できる能力を身につける。

4年次には、卒業研究とその発表を通じて、データから得られる知見を論理的に考察し、そこから新しい知見を見出し、かつそれを適切にわかりやすく伝達することのできる能力を身につける。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

① 学科としての設置理由

本学科では、専門基礎分野で数学や情報の基礎とデータ分析の手法や活用実践を学び、更に専門応用分野では、ビジネスデータサイエンスやヘルスデータサイエンスに関する学びを据えていることから、社会の急激な変化に対応できる企業経営及びヒューマンサービスに貢献できるデータサイエンティストの育成を企図している。

我々は、社会情勢の変化に伴う様々な課題に直面しており、これからの人材はこうした変化に対応する課題解決能力が求められている。下関市では、急速に進む少子高齢化や人口減少に加え、基幹産業の停滞・衰退、都市部空洞化の進行、地域間格差の拡大、行政の財政圧迫等の課題を抱えている。各種の分野を結ぶ横断的なデジタル施策の推進や新たな価値創出に貢献できる人材を育成することは喫緊の課題であり、大学教育のみならず中等教育段階からの教育に力を注ぐ

ことが求められる。こうしたことから、本学科に中等教育段階で情報領域の教育を担う高等学校教諭一種免許状（情報）が取得できる教職課程を設置することは大変重要な意味がある。

一方で、情報科目が必修化された高等学校の現場においても、情報科目のみを担当する教員数は非常に少ない状況である。また、令和5年度の山口県教員採用試験においても、情報教員採用予定者数は2人程度と少ない。数学など他教科の免許状を持ち、複数科目を指導できる教員は、高等学校の現場で今必要とされている教員である。

また、山口県教育委員会は県立高校再編整備計画で、令和8年度にも進学に重点を置く中高一貫校を設け、高いレベルの学びの環境を整える方針を示している。こうした中高一貫校では、中学校、高等学校の6年間を通じた体系的なカリキュラムを組んでいる。一般的に中学校の3年分の学習内容を2年間で学習し、中学校から高等学校内容を学んでおり、こうしたカリキュラムでの数学指導においては、中高一貫教育が必要となる。

以上のことから、データサイエンス学科に複数校種、複数教科の免許状を取得できる教職課程を設置することは、中学校及び高等学校の現場で求められる幅広い知識や専門性を持ち、複数の教科指導も可能となる教員の養成に大きく貢献できるものと考えている。

（１）中学校教諭一種免許状（数学）

数学は、論理的思考の根幹となる重要な学問でありながら、生徒の数学への苦手意識は高くなり、理系離れが叫ばれて久しい。データサイエンスの専門領域は、理系的要素と文系的要素の接合が期待されるため、文理両方における素養を基礎として教育現場における様々な課題に対してデータを用いた計画や意思決定、組織判断を実践する人材を育成する。このような実践力は、中学校での生徒への教育的指導のみならず、学校経営において求められる力でもある。

また、文理融合的な素養は、数学をより身近で親しみやすくし、生徒たちの学習意欲を向上させる教育に繋がる。本学科で数学の専門知識を基礎として、統計解析などを通じてデータを収集・分析し、社会活動に実践応用することを学んでいくことにより、数学をより身近で親しみやすく、面白さを感じさせることができる教員を養成することができるからである。これは、初等教育の算数から中等教育の数学への接続において、実際の社会で活用できる数学の知識や技能を実践的に身につけさせることにつながる。

以上のことから、データサイエンス学科に中学校教諭一種免許状（数学）の課程を設置することは、中学校数学科教育に対応することのできる高い能力を持った教員を育成することとなる。

（２）高等学校教諭一種免許状（数学）

新しい学習指導要領で、高等学校の数学では、必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育を充実させることとしている。本学科では、代数学、幾何学などの基礎となる数学的知識に加えて、統計に関する科目を充実させている。数理統計学、ベイズ統計学、統計的モデリングなど、様々な課題を解決するための演習を多く取り入れ、より実践的に数学を活用できる人材育成を行う。さらに、統計の基礎となる数学的理解を基に、場面に応じた統計手法の選択を適切に教授することのできる人材を育成する。こうした人材は、新しい指導要領で広く求められる、情報科と連携した統計教育の充実に寄与する

また、本学科では、データを実際にどのように使うのか、なぜ統計解析を学ぶのかの意味を理解できる人材を育成する。高等学校学習指導要領では、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学

的活動を通して、数学的に考える資質・能力」を育成するとしている。本学科で育成する教員は統計解析を実社会で利用することのできるスキルを持ち、数学を主体的に学ぶ良さを知り活用することのできる教員である。さらに、様々な課題に対してデータを用いた計画や意思決定、組織判断に貢献することができる実践力を持つ教員は、教育現場で求められる人材でもある。

このように教育現場で必要とされる優秀な教員を養成するため、データサイエンス学科に高等学校教諭一種免許状（数学）の課程設置を申請するものである。

（３）高等学校教諭一種免許状（情報）

情報通信技術の進歩発展はめざましく、特にインターネットや携帯電話は中等教育段階の生徒たちにも広く普及しており、このような社会基盤の変化の中で、経済社会のあらゆる領域において様々な種類のデータの蓄積・集積が進んでいる。これらのいわゆるビッグデータは、多様な分野において新たな価値創造のチャンスを持っている。

一方で、インターネットやSNS利用に伴い、学校における情報モラル教育は、ますます重要になっている。また、わが国では欧米と比較してデータ分析スキルを有する人材や統計科学を専攻する人材が極めて少なく、イノベーションの鍵を握るのは人材であるとして、初等中等教育段階のIT教育においてもIoT、データサイエンスなど、世界先端の技術や知識の習得を常に積極的に支援する学習環境を整備するとしている。

高等学校においては「情報Ⅰ」が必修化され、全ての生徒がプログラミング、ネットワーク、情報セキュリティ、データベースなどの基礎的内容を学んでいる。情報活用においては、主体的・対話的で深い学びの実現のために、情報を的確に理解し効果的に表現でき、様々な事象を数理的に捉え、資料や情報に基づき分析考察できる力が求められている。

データサイエンス学科に設置する教職課程は、データ分析の基礎、情報倫理、データ分析手法やその活用を専門的に学び、アクティブラーニング手法による演習や発表などを通して実践力を養う。また、専門応用科目では、ビジネスデータサイエンスやヘルスデータサイエンスなど幅広い分野での具体的事象を扱いながら分析考察する力を養う。

こうした力は、高等学校での新しい情報科教育に求められる資質であり、以上のことからデータサイエンス学科に高等学校教諭一種免許状（情報）の課程設置を申請するものである。

様式第7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	教養教職機構運営会議
目 的：	教養教職機構は、本学における基盤教育、教養教育及び教育職員免許状取得のための教育の実施について統括するとともに、教養教職教育の質的向上及び充実に資することを目的とする。
責 任 者：	教養教職機構長
構成員（役職・人数）：	(1) 教養教職機構長（1人） (2) 副機構長（1人） (3) 各部門長（3人）
運営方法：	教養教職機構に、教養教職機構運営会議を置き、複数学部における授業科目、担当教員の調整を行う。教職課程に関する事項については、教職教育部門で検討し、カリキュラム改編や規程改正など審議が必要な場合に開催する。

②

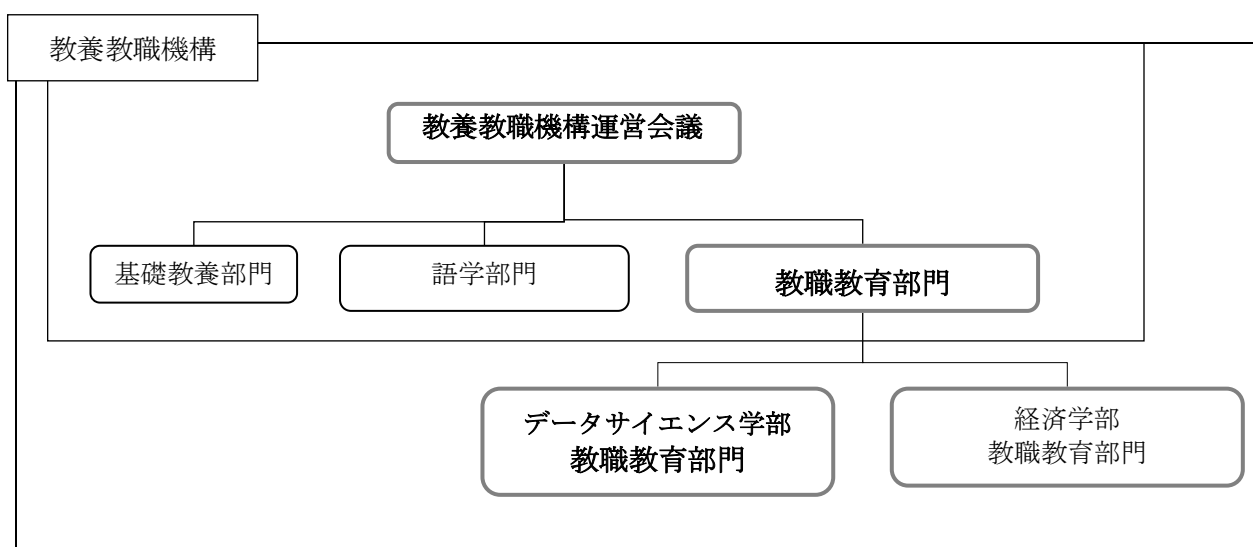
組織名称：	教職教育部門（全学）
目 的：	教養教職機構運営会議のもとに教職教育部門を置き、教職課程のカリキュラム編成の検討や教職履修学生の指導、教育実習指導に関する外部との連絡・調整などを行う。
責 任 者：	教養教職機構長
構成員（役職・人数）：	(1) 教養教職機構長（1人） (2) 教職専任教員（9人） (3) 教職担当職員（2人）
運営方法：	年間スケジュールに基づき、時間割編成、カリキュラム検討などを中心に会議を開催する。また、教職専任教員間の学生指導に関する情報共有については、必要に応じて適宜開催する。

③

組織名称：	データサイエンス学部教職教育部門
目 的：	データサイエンス学部（データサイエンス学科）の教職課程における課題や学生指導、教育実習等について協議、検討する。また、他学部や外部との連絡・調整などを行う。
責 任 者：	データサイエンス学部教職教育部門長
構成員（役職・人数）：	(1) データサイエンス学部教職教育部門長（1人） (2) データサイエンス学部教職専任教員（5人） (3) 教職担当職員（1人）
運営方法：	学部の教職履修学生の指導を行うため、学部教員との連絡調整を行う。また、全学教職教育部門会議との連携により時間割調整などを行う。

様式第7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

データサイエンス学部の管理運営及び授業内容の充実に資するため、下関市及び下関市教育委員会とともに市内の学校及び地域市民と連携して、学生が実践力を育成するためのフィールドを提供してもらうなど、学校現場との交流を取り入れた取り組みを行う予定である。また、大学周辺校区（山の田中学校区）の学校運営協議会との連携により、小学生への夏休み算数指導を実施しており、現場教員との交流を含めて学生の学びを深める。

このほかにも、教職専任教員が下関市教育委員会や市内の各学校の要請に応じて、学校運営協議会の委員や各種研修の講師として貢献するとともに、教員養成に関する要望等に応えるなど、連携協力関係を保持している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 教員をめざす学生の学校体験制度（山口県教育委員会）

連携先との調整方法： ① 大学窓口に申込書等の提出
② 山口県教育委員会から実施予定校の連絡
③ 大学での事前指導
④ 実施予定校での面接
⑤ 学校体験実施の可否の決定
受入決定後、期間、時間帯、内容等について実施校の担当者と調整。

具体的な内容： 山口県教育委員会が実施する学校体験制度。実際に生徒とふれあったり、教員の仕事に接したりする体験を通して、教員という職業の魅力を実感することにより、教育に対する意欲の向上を図ることを目的として実施するもの。主に大学1・2年生を対象に1週間を超えない範囲で学習活動の補助、学校行事の補助、部活動の補助等を行う。
令和4年度実施校（中学校53校、高等学校14校）

Ⅲ. 教職指導の状況

教職専任教員と事務局（教務課）が連携して、学生指導を行っている。

教職履修希望の新生及び履修中の在学生向けに4月教職オリエンテーションで履修指導を行い、各種免許状取得に必要な授業科目や単位数、手続きの時期など4年間の必要スケジュールについて周知する。2、3年生には介護等体験実習や教育実習の手続きについての説明会を開催する。

教育実習の事前・事後指導では、複数の教員が関わり学生との面談を行い、教育実習期間中は、実習校と連携し、研究授業の参観や直接授業指導を行う。

また、公立学校教員採用試験の受験指導等については、教職専任教員（校長等経験者の実務家教員）をはじめ、教員として活躍する卒業生による体験発表の機会も設けるなど就職指導にあたることとしている。

様式第7号ウ

<データサイエンス学科> (認定課程: 中一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職の意義及び教員の役割・職務について理解する。 ・日本国憲法について理解する。 ・スポーツ、情報、語学の基礎的内容を理解する。 ・数学の基礎について理解する。
	後期	・教育の理念、歴史、思想について理解する。 ・スポーツ、情報、語学の基礎的内容を理解する。 ・数学の基礎について理解する。
2年次	前期	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解する。 ・教育の方法及び技術についてICT活用を含めて理解する。 ・数学の各分野について理解する。 ・学習指導要領における数学科の目標や数学科の授業づくりに関する基礎的な理解を深める。 ・課題解決のためのデータ収集・加工や分析結果からの立案などのスキルを身につける。
	後期	・道德教育の理論と方法、生徒指導について理解する。 ・数学の各分野について理解する。 ・総合的な学習の時間と特別活動の意義と内容及び教科等との関連を理論的に理解するとともに、実践化のための方法的視点や具体的手立てを深める。 ・数学や数学教育についての理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うための基礎を学ぶ。
3年次	前期	・教育に関する社会的、制度的、経営的事項に関する基礎を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について理解する。 ・数学的活動や課題学習等を実現できる授業設計について学び、実践力をつける。
	後期	・教育相談の理論、方法及びカウンセリングに関する基礎を理解する。 ・教材研究能力の向上を図り、教育実習に向けて実践力を養う。 ・教具・教育機器の活用や授業分析の方法を理解する。 ・授業構成と授業分析に関する演習を通して実践的指導力を高める。 ・発表の聴講やグループ内での討論を通してデータ収集や分析の面白さや意義を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力をさらに発展させるため、演習や実習を通じて理解を深める。 ・数学の各分野、数学科教育法の理解を深め、より幅広い指導力を身につける。 ・データの分析手法や結果の統計的解釈をわかりやすく伝達することができる。
	後期	・教育実習での実践を振り返り、学習指導や教科指導に関する課題を設定する。 ・4年間の学びを振り返り、自己の課題や社会における教育的課題について追及する。 ・数学の各分野や教育法の理解を深めるため、実践を通して指導力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜データサイエンス学科＞（認定課程：中一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次						
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職論	数学基礎		英語 I b	データサイエンス入門
			コンピュータ科学		スポーツ実践A	
					日本国憲法	
					健康と運動	
	後期	教育原理・教育課程論	DSプログラミング入門		英語 I d	
			線形代数学		コンピュータ活用 I	
2年次	前期	教育心理学	解析学			データサイエンス基礎
		教育方法論（ICT活用含む）	確率論			回帰分析
		数学科教育法 I				
	後期	生徒指導（進路指導含む）	幾何学			
		道德教育	時系列解析			
		総合的な学習の時間及び特別活動の指導法				
		数学科教育法 II				
3年次	前期	教育行政	ベイズ統計学			
		特別支援教育論	統計的モデリング			
		数学科教育法 III				
	後期	教育相談		介護等体験実習		
		教育社会学				
		数学科教育法 IV				
4年次	前期	教育実習 I				
		教育実習 II				
	後期	教育実習事前・事後指導				
		教職実践演習（中高）				

様式第7号ウ

<データサイエンス学科> (認定課程: 高一種免(数学))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職の意義及び教員の役割・職務について理解する。 ・日本国憲法について理解する。 ・スポーツ、情報、語学の基礎的内容を理解する。 ・数学の基礎について理解する。
	後期	・教育の理念、歴史、思想について理解する。 ・スポーツ、情報、語学の基礎的内容を理解する。 ・数学の基礎について理解する。
2年次	前期	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解する。 ・教育の方法及び技術についてICT活用を含めて理解する。 ・数学の各分野について理解する。 ・学習指導要領における数学科の目標や数学科の授業づくりに関する基礎的な理解を深める。 ・課題解決のためのデータ収集・加工や分析結果からの立案などのスキルを身につける。
	後期	・生徒指導の理論及び方法について理解する。 ・総合的な学習の時間と特別活動の意義と内容及び教科等との関連を理論的に理解するとともに、実践化のための方法的視点や具体的手立てを深める。 ・数学の各分野について理解する。 ・数学や数学教育についての理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うための基礎を学ぶ。
3年次	前期	・教育に関する社会的、制度的、経営的な事項に関する基礎を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について理解する。
	後期	・教育相談の理論、方法及びカウンセリングに関する基礎を理解する。 ・発表の聴講やグループ内での討論を通してデータ収集や分析の面白さや意義を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力をさらに発展させるため、演習や実習を通じて理解を深める。 ・数学の各分野、数学科教育法の理解を深め、より幅広い指導力を身につける。 ・データの分析手法や結果の統計的解釈をわかりやすく伝達することができる。
	後期	・教育実習での実践を振り返り、学習指導や教科指導に関する課題を設定する。 ・4年間の学びを振り返り、自己の課題や社会における教育的課題について追及する。 ・数学の各分野や教育法の理解を深めるため、実践を通して指導力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜データサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（数学））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次						
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職論	数学基礎		英語Ⅰb	データサイエンス入門
			コンピュータ科学		スポーツ実践A	
					日本国憲法	
					健康と運動	
	後期	教育原理・教育課程論	DSプログラミング入門		英語Ⅰd	
			線形代数学		コンピュータ活用Ⅰ	
2年次	前期	教育心理学	解析学			データサイエンス基礎
		教育方法論（ICT活用含む）	確率論			回帰分析
		数学科教育法Ⅰ				
	後期	生徒指導（進路指導含む）	幾何学	道德教育		
		総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	時系列解析			
		数学科教育法Ⅱ				
3年次	前期	教育行政	ベイズ統計学			
		特別支援教育論	統計的モデリング			
		数学科教育法Ⅲ				
	後期	教育相談		介護等体験実習		
		教育社会学				
		数学科教育法Ⅳ				
4年次	前期	教育実習Ⅰ				
		教育実習Ⅱ				
	後期	教育実習事前・事後指導				
		教職実践演習（中高）				

様式第7号ウ

<データサイエンス学科> (認定課程: 高一種免(情報))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職の意義及び教員の役割・職務について理解する。 ・日本国憲法について理解する。 ・スポーツ、情報、語学の基礎的内容を理解する。 ・情報化が社会に及ぼす影響、情報倫理などを理解する。
	後期	・教育の理念、歴史、思想について理解する。 ・スポーツ、情報、語学の基礎的内容を理解する。 ・コンピュータ及び情報処理に関する基礎的な知識・技術等を修得する。
2年次	前期	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について理解する。 ・教育の方法及び技術についてICT活用を含めて理解する。 ・情報システムの設計、管理、運用に関する知識・技術等を修得する。
	後期	・生徒指導の理論及び方法について理解する。 ・総合的な学習の時間と特別活動の意義と内容及び教科等との関連を理論的に理解するとともに、実践化のための方法的視点や具体的手立てを深める。 ・情報通信ネットワークの構築や運用管理、活用に関する知識・技術等を修得する。 ・実データを用いたプログラム作りと実行の演習をおこなうことで、実践力を身につける
3年次	前期	・教育に関する社会的、制度的、経営的事項に関する基礎を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について理解する。 ・マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技能等を修得する。 ・高等学校情報科の意義と目標を理解する。 ・情報科の内容と指導方法を理解する。 ・情報科教員の役割を理解し、情報科の教員になるための資質と能力を身につける。
	後期	・教育相談の理論、方法及びカウンセリングに関する基礎を理解する。 ・高等学校情報科の授業設計や評価について理解し、学習指導案を作成する能力を育成する。 ・教材研究、授業の実施・評価・改善を経験し、情報科の教員になるための教育技術を身につける。 ・発表の聴講やグループ内での討論を通してデータ収集や分析の面白さや意義を理解する。
4年次	前期	・教員としての資質能力をさらに発展させるため、演習や実習を通じて理解を深める。 ・データの分析手法や結果の統計的解釈をわかりやすく伝達することができる。
	後期	・教育実習での実践を振り返り、学習指導や教科指導に関する課題を設定する。 ・4年間の学びを振り返り、自己の課題や社会における教育的課題について追及する。 ・情報科の各分野や教育法の理解を深めるため、実践を通して指導力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜データサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（情報））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次						
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職論	情報社会及び情報倫理		英語 I b	
			コンピュータ科学		スポーツ実践A	
					日本国憲法	
					健康と運動	
	後期	教育原理・教育課程論	情報学概論		英語 I d	情報リテラシー
			DSプログラミング入門		コンピュータ活用 I	
2年次	前期	教育心理学	データベース			
		教育方法論(ICT活用含む)				
	後期	生徒指導(進路指導含む)	ネットワーク技術論	道徳教育		
		総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	情報と職業			
			データサイエンス演習			
3年次	前期	教育行政	情報システム論			オペレーションズリサーチ
		特別支援教育論	デジタル信号処理技術			
		情報科教育法 I	経営情報システム論			
	後期	教育相談	パターン認識	介護等体験実習		社会ネットワーク分析
		教育社会学	テキストマイニング			
		情報科教育法 II				
4年次	前期	教育実習 I				
	後期	教育実習事前・事後指導				
		教職実践演習(中高)				